

酪農にかける想い

北海道帯広農業高等学校 酪農科学科 1年 野田 葉月

私は幼少期から動物が好きでした。幼いころはそれが理由で酪農家になりたいと思っていました。しかし、成長するのと同時に違う感情が私を酪農へ導いていることに気がついたのです。

私の実家は小規模ですが乳肉混合経営を行っています。肉牛に足を向けたのはつい最近のことでした。そんな矢先に新型コロナウイルスが蔓延し、肉牛の値段が大幅に下がりました。実家の設備などはとてもいいものとは言えず、古いものばかりです。簡単ではない状況の中でいつも酪農に向き合い、そして一生懸命に仕事をこなす父の助けになりたいといつも思っていました。

言ってしまうと私が酪農家になりたいと思う気持ちの大半は、父の手助けをしたい。というものだったのかもしれませんが。現在、高校で酪農業について学んでいる私ですが、今この瞬間も、たった一人で働いている父が心配です。欲を言うと、家を手伝う傍らで勉強したいほどです。しかし今の私に何ができるか、というと「手伝い」だけなのです。一人分の仕事を分担しているだけです。将来、経営規模を大きくして収入を上げ、私の給料などの問題もあります。それなのに今のまま家に帰っても戦力外になってしまいます。

正直に言えば、私は頭の悪い人間です。酪農に関する知識は、中学校三年間家を離れていた私には一般人でもわかるようなことばかり。高校に入ってから「同じ酪農家の子供で、こうも違うのか」と苦しむことがたくさんありました。授業中寝ていてもテストの点数がいい友人、家の農機の話で盛り上がるができる友人。彼らと自分の間にある大きな差はなん何か、と悩みました。

それはきっと、目指す地点の違いなのです。「酪農家になりたい」と思う人たちと「家族を助けたい」私とでは、やはり大きな違いがあったのでしょう。私の夢はまだ発展途上なのです。

高校を卒業し、家で酪農を経営するにあたって、私のやりたいことは大きく分けて四つ。

一つ目、農機の購入。現在私の実家で使用しているタイヤショベルは中古品で、もう何十年と使い続けているものです。私が卒業して家に入り、経営規模の拡大をうまく成功させることができたなら、収入も増えるはずです。そうすればこの目標は早々に達成できそうです。

二つ目、家の建築です。肉体労働が主な仕事である酪農家において、心身を休める場所は仕事場の次に重要になると私は考えます。これに関しては父とも意見が一致しており、私の卒業後10年以内に確実に実現させようと思っています。

三つ目は先に述べていた肉牛事業の規模拡大です。農機の購入も家の建築にもまとまった金額が必要となるため、大前提にこの項目をクリアしなければなりません。

四つ目、施設の改築です。現状、我が家の搾乳体制は慣れ親しんではいるが、便利ではないものです。これは要相談ですが、規模を大きくするうえで、設備を変えていくのも視野に入れていきたいです。

話は変わりますが、今新型コロナウイルスがとどまることなく日本を侵食している状況にあります。私たちに求められているのは酪農家のもつ精神と同じものだと思います。「少しなら大丈夫」「なんで行動を制限されなくちゃいけない」そう思う若者は多いです。自然を相手にするため、気候に左右されやすい農業や、動物を相手にしているため、病気などと直面することの多い酪農では、「仕方がない」「しっかり対策しよう」と思える人がたくさんいるように感じます。そんな精神を養うのも高校だと思っています。

今は、突然変わった生活様式や長い空白からやっと再開した学校生活、寮生活に混乱し大変だと感じることも多いです。ですが、知識をつけ、体力をつけることで立派な酪農家になれると思います。それは私のためだけでなく、家族への恩返しにすることもできます。私が立派な大人になることができれば、父や母だけでなく兄弟も安心させられることができると思います。「酪農の夢コンクール」ということですが、私にはまだ世界に誇れるような夢はありません。ただ、私は酪農にはとても大きく、そして素晴らしい力があると思います。

それは、人々を笑顔にさせられる力。おいしいご飯は、人の心を癒すことができます。温かいご飯は私たちに力を与えてくれます。笑う力や、笑わせる力です。そんな酪農に、私は強いあこがれを持っています。そして、そんな酪農を陰で支えている酪農家にも。毎日仕事に励む農家の姿。朝早くに家を出て、夜遅くに帰ってくる父の姿。単に「すごいなあ」と思っていたわけではありません。一般のサラリーマンから見れば、毎日同じことを繰り返す日々かもしれません。上司も部下もいない、人間関係のごたごたがない仕事だといわれるかもしれません。ですがそんなことはないのです。毎日同じように見えるのは、毎日問題が起きないからであり、毎日問題が起きないようにしているからです。人間関係が楽に見えても、新規就農であった父は、初めての土地で信頼関係をゼロから築いてきたと私は母から聞いています。

一般人には見えない場所で働き続ける父を私は尊敬し、そして憧れます。「私も父のような人間になりたい」と、そして「父を超える人間になりたい」と。

みんなを笑顔にさせる酪農を、私は尊敬します。そして酪農家である父を追い越すのが私の目標です。

私の通う北海道帯広農業高等学校では、毎年酪農科学科の一年生は寮に入り、朝と夜の実習を行います。ですが今年は新型コロナウイルスの影響で、寮に入れず生徒がいました。朝の実習もなくなりました。朝早くの実習は、酪農家を目指す私にとって、早朝に慣れる訓練になる予定でした。それができなくなった今、私はただ勉学に励んで基本的な技術や知識を身につけ、長期休みには実家を手伝い、寮では生活習慣を整える毎日に心を落ち着かせようと

思います。

私が酪農へかける想いは、家族への思いです。私を育ててくれた父や母に恩返しをする。それが私の「夢」です。酪農で世界を変えるのは私のやりたいことではありません。「意欲的でない」「消極的だ」と言われてしまうかもしれません。それも仕方のないことだと思っています。夢と語るには小さなものかもしれませんが私にとっては「私の世界」を笑顔にできる夢です。はたから見れば「家でゆっくりしたいだけ」でしょうと思われがちですが。ゆっくりゆっくり家族への恩返しをしていきたいと思っています。

幼稚な考えの多い文でした。愚痴が混ざっていたり、言いたいことがまとまり切っていなかったり。人様にお見せできるかどうか少々不安が残りますが、この稚拙な思いが、葛藤が伝わってくれたらと心から願います。

ご本人による朗読を
こちらからお聴きになれます。

